

■ 「大阪」に生まれた大学として、「大阪」の活性化に貢献を ■ 新研究拠点「なにわ大阪研究センター」が誕生 ～ 4月3日（日）・開所式、開設記念展を開催（～5月15日（日））～

関西大学では創立130周年を契機に、大阪にある多様な文化を研究する拠点として、関西大学なにわ大阪研究センターを新設し、その開所式および記念展を下記のとおり開催します。

「文化が魅力を生む」。本センターは「大阪」に生まれ育まれてきた大学としての社会的使命と期待を背に、長年にわたって本学が集積してきた豊富な地域研究と地域連携の実績を結集し、大阪文化を次世代に継承し発展させることを目的としています。

本センターでは以下の5つの基幹研究部門を策定し、それぞれの研究方針に沿って、学内公募で採択された研究チームによる活動がすでに展開されています。

- ① 本学のルーツを探る関西法律学校・泊園書院部門
- ② 持続的な地域研究のハブを宣言する大阪地域研究部門
- ③ 上方演芸の研究部門
- ④ 歴史認証とCG技術、社会科学、工学の英知を結集した景観再現・デジタルアーカイブズ部門
- ⑤ 大阪の防災・減災と環境部門

本学では多彩な学問分野を有する総合大学の利点を生かし、本センターを「地域研究・地域連携のハブ」として、知的好奇心にあふれた魅力的な情報を発信し、地元「大阪」との関わりをさらに持続させていきます。

なお、センターの概要および今後の研究活動の展望等の詳細につきましては、開所式当日にインタビュー取材にて対応いたします（ご希望の場合は、お手数ですが予めご質問内容をお知らせいただきますようお願いいたします）。また、7月16日（土）には、なにわ大阪に縁のある講師を招いてシンポジウムを開催する予定です（※詳細は改めてご案内します）。

つきましては、ご多忙の折恐縮ですが、取材のご検討をよろしくお願い申し上げます。

記

【日 時】 〈開所式〉 4月3日（日） 11:00 ～ 11:30

〈記念展〉 4月3日（日）～ 5月15日（日） 10:00 ～ 16:00 （4月3日は11:30～）

※土日祝閉館（4月3日および5月15日を除く）

【場 所】 関西大学なにわ大阪研究センター

（吹田市山手町3-3-35（阪急「関大前」駅下車 北出口より徒歩15分）

【対 象】 〈開所式〉 関係者のみ 〈記念展〉 どなたでも可 【参加費】 無 料（事前申込不要）

【式 次 第】 ご挨拶（楠見晴重学長、池内啓三理事長）、センタープレートの除幕、内覧会 ほか

【展示内容】 ・「なにわ大阪研究」10年のあゆみ

・「なにわ大阪研究」の研究成果の一部と所蔵資料の公開

「芝居町道頓堀一中村儀右衛門と山田伸吉」展、豊臣期大阪図屏風レプリカ展示ほか

・ 創立130周年記念特別研究費（なにわ大阪研究）に採択された研究班の概要および成果の公開

以 上

※ご取材を希望の方は、お手数ですが下記お問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当：石田、寺崎

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 Tel.06-6368-0201 Fax.06-6368-1266

www.kansai-u.ac.jp

この伝統を、超える未来を。

■ 「なにわ大阪」とは

「なにわ大阪」には大阪の歴史・文化遺産という過去のストックと、常に未来に向けて発信する現在のフローの両者が含意されている。大阪を冠する機構・団体、あるいは「なにわ」単独の呼称もあるが、「なにわ大阪」とした表現は希少性が高い。このためセンター名称にこの言葉を使用している。

■ 「芝居町道頓堀－中村儀右衛門（なかむら・ぎえもん）と山田伸吉（やまだ・しんきち）」

「くいだおれの町」大阪の代表ともいえる現在の道頓堀は、かつては芝居町として賑わい、「道頓堀五座」と呼ばれる芝居小屋が軒を連ねていた。本学は、道頓堀の景観を描いた様々な資料を収集して調査・研究を進め、明治末期から大正初期の街並みをCGとして復元する一方で、道頓堀ゆかりの人物の調査・研究にも取り組み、地域の歴史的・文化的価値の再発見と活性化に取り組んできた。

○中村儀右衛門（1852～1922）・・・明治から大正にかけて大阪で活躍した大工棟梁。道頓堀を中心として彼が携わった大阪の劇場建築図面や仕様書、舞台背景の下絵である大道具帳のほか、彼の日記や手帳など、所蔵総数は455点に及ぶ。これらは明治以降の道頓堀を中心とする大阪の劇場建築の様相を知るだけでなく、当時の芝居小屋の息づかいが伝わる貴重な資料である。

○山田伸吉（1903～1981）・・・大正から昭和にかけて大阪松竹座を中心に舞台意匠を手がける一方、洋画家としても活躍。舞台背景画デッサンやスケッチブック、歌舞伎の名場面を描いた油彩画のほか、彼が装幀を手がけた大阪ゆかりの作家たちの書籍や書簡類などを所蔵している。これらは道頓堀をこよなく愛した彼の生涯を知る資料であるとともに、彼が活躍した時代の演劇界の様子を知るための興味深い資料が多く含まれている。

■ 関西大学なにわ大阪研究センターの前身

2005年度以降10年間にわたって文部科学省から採択された以下の3つのセンターをはじめとする長年の地域研究・地域連携活動の成果が、本センターの礎となっている。いずれも文部科学省指定事業に採択されたプロジェクトの研究拠点である。

なにわ・大阪文化遺産学研究中心（2005.4～2010.3）

[文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業／オープン・リサーチ・センター事業]
文化遺産学という新しい学問領域の研究・教育拠点として創設され、なにわ大阪の地に集積されている多様な文化遺産を調査・研究し、その成果を地域社会に還元した。

大阪都市遺産研究中心（2010.4～2015.3）

[文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業]
大阪の都市遺産を史的に検証し、その継承と発展を目指す研究拠点として設立され、「形」と「心」の両面から都市景観の変貌を検証した。

社会的信頼システム創生センター（通称「STEP」）（2010.4～2015.3）

[文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業]
地域の信頼を生み、社会効率の上昇と社会問題の軽減を目指す実践研究センターとして、大阪天満宮の地下水の復活、天神橋筋商店街の違法駐輪の排除、大阪の古地図の最新技術による可視化などを行ってきた。